

自由連合

Libera Federazio

1970
5月20日

N-ro 16

姫路市山崎354
何井孝三 代表
自由連合社

定価 30円

振替口座
大阪1264

④大阪にも自連社アジトあり、来阪のときほど。
⑤自連にカンパをカンパ

共同体の創出と共同管理

市民運動を考へなす

■市民運動の出発点

マルクス主義は社会的、政治的な人間の普遍性を強調したが、その結果、人間の非政治的あるいは非社会的な面が切り捨てられた。人間の非社会的側面そのものが、やがては人間を墮落に導くことになることは明らかである。しかし、そこをいけば運動のバネとして大切にしているところから市民運動はある。

マルクスの窮乏化理論が破綻し、大衆社会化が進行した。そこではもはや、大衆運動の主軸であったところの労働運動の占める比重は減少し、自立したさまざまな運動が生まれてきた。

このような変化が、とくに日本の60年代に特徴的であり、しかも、社会主義国の現実は、かつての社会主義理論を脱した新しいビジョンを要求させる。

これらの現状把握から、市民運動が考へられることが必要である。

■共同管理の志向

共同管理という課題を担った市民

■根拠地の試み

共同管理という課題を担った市民

19世紀に於いて、力の問題は、私有財産制の放棄によつて解決されると考へられていた。しかし、今日の管理社会の現実では、管理に名を装つて力が立ち現われた。革命後のロシアの現実はその如実に示している。

では、どのような社会、我々のなかにあつて、革命はどのように達成されるのであろうか。そこに共同管理という課題が提出される。共同管理、それは日常、生活空間から共同性を創出していくことに他ならない。そこで市民運動は、運動の過程に於いて、共同管理を目指す。と同時に、そのなかで、人間自身が変つていくことも追求されるだろう。

共同社会の実現、それは共同管理を担い得る人々によつて達成され、日々の市民運動はその母体となる。このように、日常の生活空間から、いわば社会の底辺から運動を創り上げ、共同管理社会を形成していく。ここに市民運動の方向がある。

見ろよ！
その若いの
よくみて
みろよ！



鐘を
ならせ！



武器としての共同体

①「市民運動について」のテーマで、表社主催で開かれたシンポジウムにおける高田通敏さんの報告である。

平等の日常化、生活化、土着化——現実の共同体は多くの欠点をこめていながらも、いかにあるべきか、いま私たちに、公共圏内に属する視座を与えておいては、人権意識において、また市民としての責任において、労働者の労働環境改善などにおいて、時間的経過においてあらわれてくる斗争の日常化、生活化、土着化の問題である。いま私たちは、私たちの内的問題は、共同体をどうにかするところから、共同体の側から外に求めた斗争と、自らのものとしてその内部に見出すという作業を何よりも必要としている。それは、斗争の中、共同体と共同体の中へ斗争をいかに展開させるかである。（現代暴力論「カマヤ」より）



法律で
真理が
隠せる
ものか！



革命の原動力をめぐって

部落解放運動からの問題提起

◆部落解放運動と

労働者解放運動

外的に云うならば、「部落解放運動」は、身分闘争であり、「労働者解放運動」は階級闘争である。ただし、この「階級的」理解に疑問があります。わたしに「身分闘争」と「階級闘争」を全く「逆さ」にして理解しているのではないかと思っています。

少し乱暴な言い方をすれば、現在、労働運動であるとか、民主運動であるとか考えられている運動こそ、近代的な装いをこしらえた「身分闘争」にすぎず、むしろ、身分外の身分の立場から身分そのものの、差別そのものの廃棄を要求している、わたしに「部落民の身分闘争」だけ、「階級闘争」への方向性をもちはじめたのではないかと考えるからです。

◆解同(部落解放同盟)と

日共

日共の「公式」な革命綱領は、一九三三年のいわゆる「三ニテー」から一歩も前進していません。すなわち「プロレタリア革命に強行的に転化する民主主義革命」という規定です。最近ではさらに後退して、「プロレタリア革命に強行に転化する」が抜けおちてしまい、日本はアメリカの植民地地という馬鹿らしい規定が加わり、要するに「民族・民主革命」だとか、「二つの敵」などが登場しています。

日共の理論を一言で云えば、「当面の目標は、ブルジョア民主国家の完成であり、日本社会の中の「封建的諸要素」と闘う」ということです。これは「前行政党」としては、全くの時代錯誤であり、知的混乱であります。したがって、資本家の要請をいうことがあつても、それは資本家が「封建的諸要素」を擁護すると思われ、場合に限られ、資本主義そのものを否定することはありません。資本主義そのものを否定する労働者人民の意欲や運動は、すべて「トロツキスト」・暴乱主義」としか認識

できないわけでは

と云うが一方、解同としては、まさに部落民の「ブルジョア的権利」を保障されていらない。よく「ブルジョア的権利」の中でも、労働者の自由販売を支えるものとしての就労の機会均等が保障されていなければいけません。この「前ブルジョア社会」的不当に對する闘争を通して、部落民の「完全解放」プロレタリア革命を目標としています。

部落民は、部分的な、但別的な解放によって自らの解放はあり得ないのです。おのずからブルジョア革命とプロレタリア革命とを同時に為しとせねばならず、要求獲得が運動の目標ではないのです。

資本主義社会の否定以外に日本革命はありえないのであつて、日本人一般の解放運動は、プロレタリア革命の実現以外にないということ、このことを解同もまた運動の方向性として、明確に捉える必要がありま

◆地域拠点主義こそ

唯一の戦略

日共系の評論家が、アナキズムの残滓として否定していますが、わたしは、部落解放運動にとって、地域拠点主義こそ最も重要な戦略であると思ひます。

部落内部における一人ノミの要求を通して、差別、すなわち人間疎外の具体的な現実を分析し、人間生活のあらゆる分野、あらゆる領域、その衣食住、学校教育、結婚、就職、労働、家庭生活、知識、社会活動、等々の総合的な検討を通して人間の自己回復を再構成していくこと。い

共同意識の「歴史性」の重さは、資本主義社会の共同破壊の圧力と抵抗することによって、未来の人間共同体の創造への苦痛を自ら背負つてい

◆大衆行動主義

これは、水平社運動以来、部落解放運動のもつ「史的遺産」です。わたしに「糾弾闘争」の中で作りだしてきた大衆行動は、各自が各自の、または共同の差別に對する怒りによって行動に起ちあがるものです。

このような怒りの行動を個人(差別者)に對する糾弾から、行政(差別行政)に對する糾弾に発展させてさらにこの行政闘争を通して、大衆の一人ノミが社会の現実に対する認識を深め、社会改革を推進するにめ

のさまざまな計画を自ら立てる運動に成長してきました。

要求を獲得すること自体よりも、いかに大衆自らが闘い、成長するかということが重要なことです。大衆行動主義が忘れられる時、解放運動は、物とり主義に転落し、部落ホスが生れ、差別の再生産があらわれるでしょう。

◆自己否定の階級性

部落解放運動は、自分が部落民であることを公然と宣言することではじま

ります。世間の人々が、一般社会の意欲が、人間あつたかいていない存在、差別してある存在だということと自分の中の「かくしたい」意欲と闘い、周囲の「眠る子」を起すための意欲と闘い、堂々と宣言することからはじま

（九州通信 乙子号より）

大阪西浜部落から

西浜部落は、釜ヶ崎に隣接して、西成・浪花面区にまたがっている。部落民の他に多数の朝鮮人や労働者住んでい

（大阪朝日新聞）

長崎ニート・農園

私たちは、共同体を創ることに
よって私たちの理想とする社会の
サンプルとし、それによって家族
ぐるみが、老人も子供も女も病人
も革命の志となることを目指して
います。

私たちの共同体は、資金生産の
場であり、生活の場であり、また
憩いの場でもあります。私たちは
つぎつぎにこのような共同体を現
出させることによって、新しい方
法による、新しい社会への構想を
目指しています。

現在、ヤマギシ会では、三重県
の本部共同体、その近くに豊里実
顕地、また北海道に分場というふ
うに、全国に約30近くの共同体を
創りましたが、今度、長崎県西海
大橋附近に新しく「長崎ニート・
ア農園」を創りました。多くの
の訪問、参加を希望します。

場所 長崎県西海町
資格 年齢、性別、人種、財力
すべて不問、土地、家、
無料提供

目標 権力と独裁者のいない理
想社会建設の根拠地とす
ること。乳と密と人情溢
れる里造り。

連絡場所 東京都戸塚町3の113
ヤマギシ会案内所 電話368-4650

無政府主義革命

血と涙の祝祭を。／メーデー
会場をオニのハイマーケットにノ
アナキズムとアナルコ・サンジカ
リズム(ヘルドルフ・ロッカー)
「タナトス社情報紙5号」

絶叫

個人単位の発言から集会的な運
動の発展といつた方向性のもとに、
個々の学習及び発言の場としての
「金沢工大自連」が発行された。
しかし、余りに広範な視点は、向
題点を希薄化させ、スキヤキナベ
的にするが、観念化するかのいず

れかであった。

大学側の連管感分散策動によるこ
ころの科別編成になった現在、こ
で再度、原点に立ち帰り、我々がな
そうとする「組織を超越した組織」
II「自由な連合体」としての運動を
創り出すためにも、個人責任Vと
革命の意識変革Vを再度構築する
必要がある。

今後、枚原紙「金工大自連」は、
「絶叫」と名を変え、ミニコミ紙と
しての性格をもって、地下枚原を通
し、より先鋭にかつ集約的に地下運
動体として展開されていくであろう。
「金沢工大絶対自由主義者連合」

Modern

一貫して反日共系を自認してきた
集団の自己規定性の核心はどこにあ
るのか。ぼくは、それは、潜在的な
服従意識からの自覚的な脱脚II自立
を思想的原基とするサンディカリス
ムにあると云いたい。ここで、サン
ディカリズムとは共同性の追求運動
とでも言い換えてよい。

全共同派の沈滞の致命的な要因は
自らが全共同であるといつた最初の
の一点を確実に踏まえなかつたこと
につきる。

このサンディカリズムの連合が全
共同である。党派は、このそれぞれ
のサンディカリズムのなかにゆりこ
められてしまつべきだ。ところが党
派は、あまりにもうがっていきすぎた
し、闘争主体はあまりにも思想的に
貧困すぎた。これはまさしくぼくら
の不幸だ。

「蒼ざめた馬社一札帳・小樽」

NON NO 2

闘争は自己の日常を根底から向う
ことに始まる。向おうとする自己に
とっては、自己をとりまく小状況か
らの、生活空間からの反逆しか立上
ることにはならない。

どの党派にも属さないといつただ
けのあいまいな存在規定に自己の位
相を求めるのではなく、自らの理論
と行動に基く自立した運動を創出し、
大状況主義の生み出す指導・被指導
関係のもたらす権力の集中、固定化
のいっさいの根底的否定をやりきら
ねばならない。
個々一人一人の下部からのエネルギー

ギーの凝縮が自由な組織を結成し、
自立した運動体の自由連合が唯一の
直なる大衆運動の結集軸を結成して
いかねばならない。
〔福岡教育大新南会内〕

北一輝・叔藤成卿・蒼津珍彦ら

共同研究の呼びかけ

国家主義とは如何、国家なる
一集団範囲の地区を割り、他の経済
上ないし軍事上よりする侵害を防禦
し、または集団地域における経済軍
事力の以て他地域を制取すべき
目的のものである。よって国家なる
集団の权威を飾る上には、民衆を大
本となし、公費製造機械となし、全
ての組織を統治上の便利に置き、秩
序条規のもとに民衆を統治するの趣
旨なるをもつて、支配者は絶大なる
权威を握り、全ての公吏を特殊地位
に置き、犠牲心を最高道徳となし、
あらゆる思想の発現を壅塞するの必
要が起る。つづさにその事理を推求
すれば、いわゆる国家主義と称する
ものと、自治主義と称するものとは
全く性質が異つて居る。

叔藤成卿の「自治民権」の一節で
ある。そこには、超国家主義とか右
翼思想と呼ばれたものはなく、反国
家主義的なアナキズム思想すら見
出すことができる。

「イデオロギーの終焉」と軽々し
くぼくがキが繰出してゐるなかで
ほんとうの思想とは何か、思想の重
みとは何かを自らに向ひ返しつつ、
安易な流行便乗を拒否して、日本人
にとつての革命とは、日本人にとつ
ての国家とは何かを追求したいと思
う。自らの思想の土着化の原点を模
索するなかで、とりわけ北一輝・叔
藤成卿・蒼津珍彦の三人を否定的媒
介とすることを知った。

彼らの思想を研究したい人、天皇
制に怨念的意欲を持つ人、ファシズ
ムを史的かつ心的に位置づけたい人
人間にとつて民族的犯罪の責任の向
題はどうなるのかを考へたい人に共
同研究への参加を呼びかけます。

自分は何に、何故、良心をもちか
を書いて、姫路市龜山三五四↓自由
連合社内↓尾崎弘まで、熱うい、熱
うい手紙を。

俳句

秋のこと

宿場町のはずれで
食事している男
土間の炉に大きな鍋をかけ
杓子でお椀によそい
にぎり箸で口に入れるー無

精ひげの男
女はいるのか
しめのこされた戸口から
むこうに見える街道
秋の地面は
白い

美女がつばわれ
侍が殺された田舎町に
さみがえった静かさ
高気圧がはりだし
上空何万メートル北まで
空はすみきっている？
重たい屋根をかぶった家
わらじづくりは
足の指をつかい
手を台掌のようにすりあわせて
ワラをなうー

それからどうした？
べつに
それだけのこと
(草階俊雄)

リベルテ号よりー八歴史とほく
自身への告発、八心情日記抄
V、八箱根山南地、八指標を
求めてV、八幸福な死刑囚ムルソ
ーV外 発行所ー秋田市将軍野
南一丁目10番8号 リベルテ社

黒党への招待

昨年、大阪におけるエスエル左派
(パンと自由)の内部にあった情急
を私たちは「黒党」の原点としてい
る。

「パンと自由」における私たちの
宣言は何であつたか。それは言つま
でもなく八絶対自由Vを求める上向
性ベクトルであつた。そこで私たち
は八急急Vの共同体を所有したので
ある。

ところで私たちは「言語は果たし
て思想を表現できるか」という問い
かけの前でまどろんでいる。この向
題へのアプローチなしには、変革へ
の志向は生まれない。言語空間に身
をおもねる自己がその中で逆行した
時、斗いがおこるのだ。八絶対自由
Vとは、その自己の言語空間との向
の関係においてしか成立しえないの
である。私たちが生活の重みを言語
にたくす時、その言葉はどれだけの

生活の重みを表わせるのか。あるい
はそれに耐ええるだろうか。
疎外。存在の疎外は思想の疎外を
生み出し、それは言語という理知的
表象物を登場させる。私たちはこれ
をふち破らねばならない。存在を回
復しなければならぬのだ。
「黒党」の斗争は、まさにこの言
語空間への逆行からスタートされる
のである。
(千坂恭二)

黒党創刊号よりー八死の所有とし
ての急急考V外 発行所ー東京
都豊島区、表社気付け 黒党社啓

アメリカだより

このシアトルにはアナキストの
定期刊行物はない。イギリスのアナ
キスト誌やフリードム紙がある程度
普及している。アナキスト思想の
書籍はいつでも少数ながら出版され
ている。今多くの青年たちがアナ
キズムの方に傾いている。けれど
も彼等にとつてはほとんどアナキ
ストの伝統に接する方法はない。
アメリカ合衆国においては、アナ
キズムはほとんど完全に壊滅させ
られた。二つの世界大戦の間におい
ては革命的傾向をもったアメリカ人
は、共産党、社会主義労働党(デレ
オニスト)または社会主義労働党に
(トロツキスト)はいった。アナル
コ・サンジカリストのIVWは、そ
の事務所や発行部数の少ない枯閑紙
と同様、ほとんど全く一次大戦の
弾圧の老令残存者の中に余命を保
っていた。

この点では他の部分の人たちより
も、北西部のわれわれは幸運だった。
ここは以前IVWの活動が特に木材
産業、鉱業において最も勇敢だった
所で、その伝統の幾分かはこの地方
のマルクス主義者の仲間に残ってい
る。

ニューヨークにはリバータリアン
・リーグがあつた。しかし西岸のわ
れわれの所には、その影響がほとん
ど届かない。

私が夫とともにマンズレー・レヴ
イウ誌に発表したものは一九六四年
における情勢であつた。

「アナキキー」という言葉でさえ
アメリカ人の公話や文書には侮辱的
以外にはほとんど全く使用されな
かつた。長い向全体の主眼の完全抹殺
がおこなわれたのだ。(レイ・クロウ
リベルテール4号よりー八アナ
キズム運動外史V、八ベトナム人留

学生を支持し、その人権の侵害に
反対する声明V、八むそが水日記
V、八書きもらされたアナキズ
ム労働組合運動史V、八石川さん
と私V、八ベ平連と水平思考V外
発行所ー東京都武蔵野市緑町2丁
百三十一号101 リベルテールの会
定価50円

中学生連帯闘争

自己批判すべき点は、次の4つ
である。
1. 思想性なき斗争であつたこと
2. 中学生という立場に甘えた斗
争であつたこと
3. マスコミにおどらされてしま
つたこと
4. 斗争における日常性との接点
がなく、自己満足の斗争であ
つたこと

我々は「安保闘争/斗争勝利」
と叫んで来たが、何のために安
保を崩壊するのか、何のための斗
争なのか、という問いに答えるこ
とができなかった。(現在でも、
できるとは言えない) そのこと
の原因としては、中学生というこ
とへの甘えがあり、「中学生にか
らむずかしいことわかりません」
的で自己の変革などなされるよ
ちなかつた。又、我々は中学生で
あるということでもかなりもてはや
された。そしてその「もてはやさ
れる」ことに甘えきつて、デモの
おもしろさのためにデモをするデ
モになつてしまつた。

我々はブルジョワ新内を全国的
コミニケーションの場として利
用するつもりでいたが、結果的に
はマスコミに我々がおどらされる
ような形になつてしまつた。我々
の出した「かわいくやる」とい
う方針も、これを否定するわけ
ではないが、これを方針として打出
した時点において、「ゲバるとマ
スコミにたたかれるからかわいく
……」というようなマスコミとの
なれあいの姿勢があつたことは確
かである。我々は学内ではほとんど斗
争をしていなかった。今年年末をひかえ
我々は学内における建國記念日斗争、卒業
式斗争に全力を注いでゆきたい。しかし、
卒業式斗争などが単なる要求項目斗争を
終つてしまわないためにも、我々は常に中
学生とは何か、義務教育とは何かを考へてい
かねばならない。(八中学生V全国闘争中
生連帯機関誌NQO、浦和市領家49
小林方)

四〇〇円除籍

立命大「里地問題」をめぐって

△日本の夜明けは京都からVの文句風に言うなら△京都の夜明けは立命館からVとなるらしい。この言葉に象徴されるように、現在の立命大では、大学当局と民青学友会の一体となった専制的学園支配の策動がうず巻いている。

その策動は、寮運台、全共斗系学生への悪質な暴力行為、一般学生への徹底的オルグと喝喝、更に父兄を対象とした喝喝にまで進んでいる。

この「里地問題」もその悪質さが父兄の間にまで大きな波紋を投げかけている例の一つである。

民青が 全共闘学生を リンチ

里地道央君は法学部二回生で、全共闘系の学生である。

里地君は友人と待ち合わせのため河原町通りにいたところ、民青20数名に突然とり囲まれ、100米程をかつぎ上げられ、ひきずられて広小路キャンパスにつれ込まれた。そこではすでに法四回生のもう一人の学生がベンチに立たされていらた。彼は唇を切り、メガネを壊された状態で、一時向にわたり自己批判を強要され、ついには自己批判書に細印を押さされてしまった。彼の次に里次君が同じベンチに立たされたわけだ。しかし里地君はえんえん四時間にもわたるつるし上げに耐え、自己批判書に細印を押すことを拒否し通した。

しかし民青がこの彼をそのまま許すはずがなかった。民青は全員で、里地君が全共闘暴力学生であるのに自己の正統性を主張したとして、彼の学内一切立入禁止、学園からの追放を50数名全賛賛成というかの民主的ルールになった方法で決定した。

里地君はつるし上げのあと、なぐるけるのやりたいほうだいのこととをされ、内外へほうり出されてしまった。

なお、驚くべきことには、二人の教官、学生課職員数人がこのつ

るし上げを終始「見物」しており、さらには、武藤代行（現学長）もしばらくの間見物し、何も言わずに消えていったというところである。

民青によつて 除籍処分

里地君への喝喝はこれだけではなかった。次に彼に訪れたものは本学の学園追放、つまり除籍処分がそれだった。

立命大では授業料のほかは、謝恩基金四百円（教官の年俸として積み立てられる）と、学友会費千円を一括納入しなければならない規則になっている。しかし彼は謝恩基金と学友会費の納入を拒否していた。全共闘学生にとって、暴力学生とののしり、卑劣な中傷を加えた教官達に何の謝恩もあつたものではない。学友会費も同様である。

一方、当局は一週間後には、除籍処分警告通知、そしてもう一週間後には法学部事務局長の名で除籍処分通知を里地君に送つて来た。

里地君はそれに対する異議申し立てのため事務長との面会を申し入れた。それに対し、当局は大学へ来てくれとの返事をした。来たが、まさかノコノコとリンチを受けに学内に入る馬鹿はない。

そこで、近くの喫茶店で会うことになった。そこには二名の事務員が学校側から出向いて来た。

学友会費のことは何とか折り合いがついたのだが、謝恩基金については、里地君が全一括納入方法の矛盾を改めるまでは納めないと主張したため物別れとなつてしまった。

それが理由で彼はまた除籍処分のみである。

「殺人未遂」で告訴

これらの仕打ちに里地君の両親も黙つていられたかった。

お母さんは公函質問状を法学部長だけに信用できないとして大学職員五百二名全員に送附した。

この公函質問状には息子の里地の

場合を引き合いに出しつつ、①友人飯島憲雄君（法二回生）の場合②H君（事情により伏名、法二回生）の場合の事実経過が詳細に述べられている。

とくに①の場合、飯島君は11月5日突然暴力をふるつたとして、学友会派に「殺人未遂」として告訴された。

しかし彼は事件当三京都にいなかったことがはっきりしている。一方大学当局はこのことを意識的に信用し、保証人を呼び出したうえ、退学届を強制する喝喝を行なった。

（彼は過去一貫して全共闘として暴行をはたらいており、「いろいろ証拠もそろつてゐる。多くの教授が君の息子を告訴することができ。私達法律の専門家が告訴するからには十分なことはいない。」など六法を聞きながら脅迫めいた言動を行なつたのである。）

この場に出た飯島君のお母さんは彼の行動をはっきり知らなかったため、必死でメモを取つたという。

お母さんは、このメモを証拠とするため、発言内容の確認、法学部教授会としての正式発言であるのかの確認を取るため、成文化したものをその教授宛に送った。その返事は「さんさん待たされたあげく法学部事務長名で送られてきた。」「その発言は法学部教授会としての正式発言である。しかしあなたの書かれた内容は間違ひだらけで訂正の仕様がないうのでそのまゝ返送します」という簡単至极なものだった。テープレコーダーを持っていかなくつた飯島君のお母さんは地だんだんを踏む思いをさせられたのである。

そして里地君のお母さんは実例をふまえながら最終的に次の四点にわたる内容を提出している。

①事実誤認を含むあいまいな告訴状が出ていることをどのように考えるのか。

②右告訴状に関して、同封の覚え書きのような形で介入していることについてどう考えるのか。

③キャンパス内で最近ひんぴんど起つている暴力を伴う判断、自己批判の強要についてどう考えるのか。

④当局は、学生としての権利・権限内に入ることを、受験、講義等々ための具体的保証を学生に平等に与えていると考えるのか。

（次頁中段につづく）

署名者と署名運動者

立川市長リコール運動

「立川から基地をなくす市民の会」が、立川基地自衛隊移管反対のスローガンをかかげたのは、69年10月の定例デモの時でした。佐藤訪米阻止闘争に流入する巨大なうねりの中を通りぬけると、67年11月から開いてきた「砂川青年の家」から「砂川反戦聖域」に至る試みが、大雨にうたれた後の屋花のように、虚勢を洗い流され、赤裸々な相を見せてくれました。

一体何をめざし、何を基軸に、何をどう変革したのか。私はどう変り、どう強力になったのか。私はアレコレのオシャベリや、つまりらぬ党派の拘束に防げられることなく、この問題を考えぬきたいと思っています。

砂川闘争の総括にふれて植谷安弘は、「現象的な勝ち負けなど大きな問題ではない。問題は人間がどれだけ変革されたかである。」と言ったが、私と植谷の言に賛成である。権力と我々との力関係を真に変革する基準は、南いを通じて我々がどれだけ変ったかに集約される。

私たちは無数の叙事詩を書き連ねることやめねばならない。自転車操業のような小手先の政治運動と絶縁せねばならない。同じ穴のムジナが、穴の中で小さな翼を寄せ合う「現実」を力一杯動かさねばならない。基本的にはジャリだけが革命的である時代の革命政治運動を、にもかかわらず生活者大衆の自立運動と如何にかかわらせるかを模索しつつ、我が友ジャリ諸君と共に進まねばならない。

立川市長リコール運動は、正に私の内発の必然を有している。都市民として生きる権利「から出発しない一切の市民運動は、如何に安保を語り、「基地公害」論を見だそうとも空洞化するだけである。

都市民一人一人の健康と安全から出発して、それを実現するにふさわしい国のしくみ、市のしくみ

軍事のあり方が向われねばならないのではないのか。国家間の善玉、悪玉式の対立観から「平和」を守る「進歩

的」人民を、「安保反対」を唱える党（又は集団）に代表される、あわれな客体に陥しいるために、新南を説きたり、何の役にもたぬ署名をさせたりするような愚劣な政治を紛砕しなければならぬのではないか。

立川市長リコール運動は、代々木に云わせれば、「ゲバ学生がやっている」が故に、ブルジョア法のワク内の「署名」が「署名」に終るはずのない、自立の契機となる可能性を有している。

市川市長が佐藤派（自民、公明、民社）の手にあたり、尊王攘夷派（社、共）の手にあるかぎり、一割自治と称される「地方」自治体にするにないか、倒幕派へ都市自治派市民（革命派）の手に入るや否や、ブルジョア法上の市長権限などとは無関係な巨大な政治性をもつことは疑いない。

一切の既成政党、労組、組結、交援もないままに、また新左翼諸党派の問題意識からもズレた形で「砂川青年の家」「砂川反戦聖域」の闘争の場合もそうであったが、金も組結もない人々による運動が今また開始されようとしている。

私は市長リコール運動を通じて、30、50代の生活者活動家を百名以上結集することにオーの獲得目標をおきた。ジャリ行動隊は、自衛隊と闘うことを恐れぬか、南いの拡大の展望も保障し得えずに、扶殺されることには耐え得ない。立川10万市民の中に大胆な問題提起をすすめるうではないか。

「立川から基地をなくす市民の会」の連絡先は、立川市高松町2の21の20 下野順一郎まで

▽▽▽▽△△△△△
▼四百円で除籍「つぎ」▲

里地君のお母さんが提出したこの意向状は当局が意図的にのみみ消しているため、何ら進展を見せていない。しかし職員の間には、署名は云えないがしという形で当局の不当性を訴える手紙が二、三ではあるが到

着しているようである。

立命自連の発行

立命大の情況を噂として数多く聞いていたものの、僕自身入学するまではとても信じきれなかった。

しかし、現実の向題となるにはあまり時間がかからなかった。入学式後日のクラス懇話会がそれである。クラス初めての顔合わせの場に担任の教師が民青4人を連れて来たのだ。

この場での彼らが自治会執行部員であることの大義名分はともあれ、所詮同盟の工作員でしかなかった。最初の一人は醜やか口調で「暴力学生運動論」を僕達にぶちはじめたのだ。

ひマン出来かねに僕は「民青のオルタはやめてくれ」と異議申し立てしたものの、その返事がまたふられていた。「私達は同盟員として来ているのではない。自治会として来ているのです。こんなやり取りのあと僕は担任に言葉使いをいけめられる始末だった。

4月8日、僕は大学への意思表示として、自連の号外を衣笠キャンパスで書いた。これが思わぬハズシンを引き起こしてしまった。

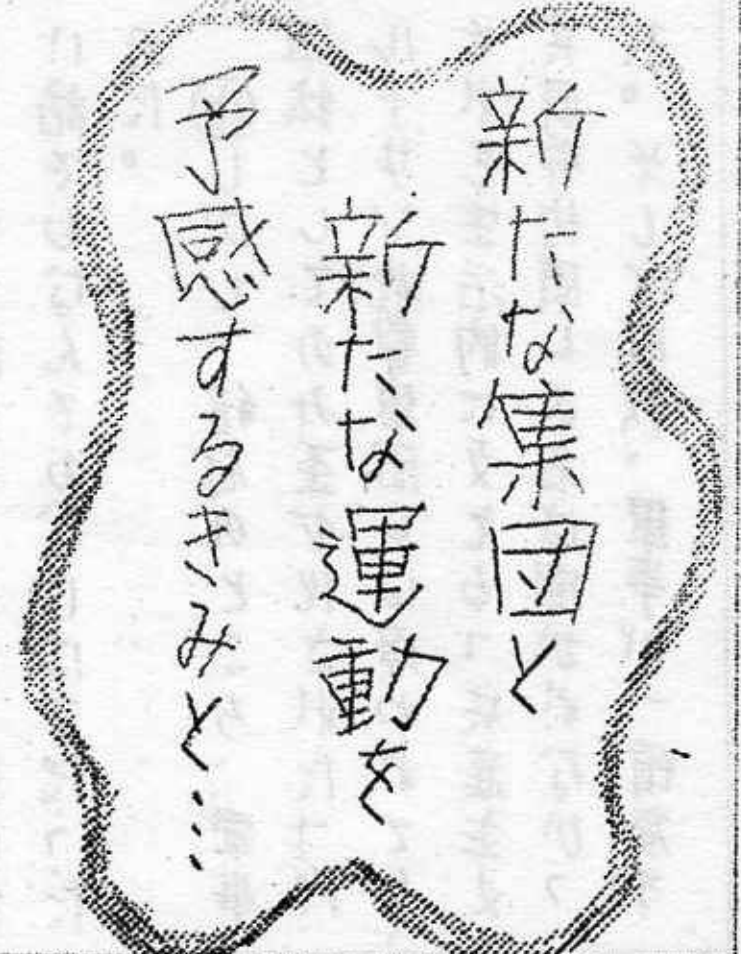
校門少し入った所で号外をまいてみると、案の定イチャモンをつけに民青のお兄さん方がやってきた。

「クラス懇話会すら民青オルタ会場と化してしまう」と書いた号外のアンケートが気に入らぬらしい。云々中傷だと肩をコツキながら追ってきたのだ。

平和と民主主義という虚和の中を寒々とした風が吹き抜ける中で、ある者は学園を去り、ある者は屈辱のもとに授業を受けている。その様な中で入学した僕ですら風化されてしまいうような感じだ。しかし大学の向題を自分自身の向題に主体的にとらえ返し、自分の運動を持てねばならないと思う。僕の運動は自治会を棄つとるためのものではないし、そんな闘争には力を貸したくない。

全島加盟自治会を根柢から突きくずす方向性を持たなければならぬと思う。それにはまず、奪われた自分の意思表示の場を持つことであり、その方法としてコッコツ自分の新聞を出すことであると考えている。前述の号外はその予告でもあったのだ。これから新しい「立命自連」の形で出て行くつもりだ。どなたか協力してくれませんか。

（下条かおる）



なせに、ぼくは...

② 世間からは、「暴力学生」とか「過激派学生」と呼ばれたぼくやきみは、「時代の鬼っ子」という位相からいつのまにか「全社会の憎まれっ子」にされてしまっていた。

③ 小器用にこまわりの効く小才を身につけていくくらゐなら、同じ志を抱いた友人と沈黙の時を共有する必要はなかったろう。夜毎溺れる酒には酔つても、鏡に映る自分の表情に嘔吐する思いもなかったろう。

④ そのようにしてしかぼくは冬を過せなかった。気がついてみると春はけなわらしい。「春闘」のビラが徒らに目につくようになった。「春」にそむいて散る花びらは、安眠粉砕、日帝打倒と呪文のようにスツブツ唱えたりした。それしかできな

い自分が、くやしーしと感じた時、「徒花でもよいから何か咲かしてみたい」と思うようになった。ぼくの中を貫流している労働キヤンズ共同体の形骸と、全共闘・パルチザンの残滓を結節してやろうと思ったのだ。その作業の中に、やっとぼくときみの共通語が生み出されると夢想する。

前史 労働キヤンズ

自治共同体運動の

⑤ ぼくが一時そこで成長してき、た労働キヤンズは、市民社会的な眼でみれば、いい子の集団である。しかし、きみやぼくのような不良

志願者を生み出したように、理想的には、正當にも反体制的志向をもつていた。

⑥ 労働キヤンズ運動が摘発していった向題は何か。それは主要には、半封建的遺制を残しながらも現在の市民社会を支えている構造に残留しているもの、とりわけ差別・被差別観念を暴露していったことだ。つまり、今日、本質的なドクマをいくらか繰り返してみても何ら新しい実践への指針とはなりそうにもない「階級」の向題をもつとも具体的なレベルで切崩してはいることだ。現在、階級は、可視的、実体的に分離しているのではなく、市民社会内での地位を獲得したものとははれもが、抑圧・被抑圧を分有しあっている。

⑦ 現在の社会構造に対する異議申し立てとして営まれる労働キヤンズが新たに拓こうとしていた人間的地平とは何であつたのか。それを次の三つに集約してみたい。

(i) 類生活としての労働キヤンズ——極端化した労働から自由な遊び、あるいは精神労働と肉体労働の分離の日常的克服の場、と口づけてもよいような本来的労働への憧憬を具体化させる訓練の場。

(ii) 共同体志向の場としての労働キヤンズ——近代管理主義として集約される秩序やイデオロギーへ生産性、効率性、與利性)に嘔吐する「余計者」のそれを克服せんとし、自治共同体がやっていくという意味での文化と人間の変革。

(iii) 並行制度としての労働キヤンズ——政治的、戦略的には、二重権力創造の母胎となりうべき根拠地創造運動。

⑧ しかし現実には、物事の始めはマンがだということを認識しながらも、そのマンがチェックな「擬似エリート」を大まじめに具現化させる運動論を、ぼくらは決定的に持ち合わせてはなかった。スチフル的な「奉仕する者」——「奉仕される者」という階級的構造をどうのり越えるかという向の赤に、具體的、物質的な表現としては、ぼくらの解答は無効だった。

⑨ 従来の労働キヤンズ運動が欠落させていた視座は、社会（根本的に構造内における階級的分布の差異を総体的な社会関係の改変とどう結節させるかという奥にあり）ではなく、自己の市民社会内における役割構造を捨象して、労働行為そのものが関係性の改変の考察を怠っていたのではないか。

⑩ 「全共闘運動は何であつたのか」ぼく達その中にあつたものが、少しでも自分の現在の混濁した無意識を見なおそうとすれば、どうしてもこの言葉がまず口になる。それは明らかに、全共闘運動がすでに観念され、その思想運動としての質を再評価する（いわば遺産を喰いつぶす）ことによつてしかぼくらにその状況が切り拓かれなかつた困難な時期にいたつた。

前史2 全共闘運動から共同労働団へ

△全共闘運動の向うたもの▽
⑪ 「向題」とは何であつたのか。ぼくなりに云えばこうだ。
(i) ぼく達が社会の中で市民権をえるためには、一定の分業を分有せねばならず、その分業体系のなかで「地位」役割構造を取得する。そのようにして受けもたらされた分業は、ぼく達の本来的な生活活動であるのではなく、見えなれぬ力支配の分有形態である。——それに対してぼくたちは、「自己否定論」を初発的駆動力としていた。

(ii) ある機能が、関係性を離れて無前提的に「言葉」として評価され、内奥をもたぬ言葉が秩序イデオロギト化していく。

(次頁につづく)

「労働とは神聖な行為なのだ」
へ民衆の心へ「労働・研究する
事自体は良いことだ」へこれまた
民衆の心へ「労働は民主主義を
破壊するのだから」へよくたはこ
れに對し、秩序イデオロギー化し
た言葉の解体を叫んだ。

⑫「暴力の向題で集約的に
出たのは、人間をどうとらえる
か」の向である。
「法」支配よりも「道徳」支配
の方が権力支配が巧妙でみえにく
い。個人の行為は個人の責任倫理
に帰すという近代合理主義の人間
観は、巧妙な秩序イデオロギーで
もある。

⑬これらの向題提起は、正当で
あったにもかかわらず、培養され
ぬまま朽ちていった。よくたはこ
情報の制度的処理体としての大学
物質の制度的処理体としての個別
市民社会に面していったとして
も、これらを単線的に政治闘争に
結びつけるパターンをのり越えて
新たな集団による新たな運動論の
もとに再構築する必要がある。

へ「パルチザン五人組」 とは何であつたか

⑭官憲の軍事的制圧に對しては、
よくたはこ反権力の表現としての
軍事的抵抗は、大衆自身へ主要には
脱セクト又はノンセクトの学生・
院生の武装自紅の兆しをどうシ
ンボライズするかが、凡化しつつ
あつたパルチザンの中でささやか
れた「パルチザン五人組」は、共産
主義共同労働団なのである。

⑮同じような志向をたて、同じ
ように権力に奮つたものとして、
が、誓約共同体的なものとしての
「アマミ」を自覺的に形成してい
こうとする動きもあつた。それに
「五人組」という日本土着の器が
引用されたのだ。

「じゃ、その五人組が、例えば
同じ会社に就職し、同じ下宿から
通つて、どこで何かシコシコ運動
していくのか」という素朴な疑問
がでて笑ひ話になつたが、実は笑
ひ話でもなんでもないのである。

⑯しかし、結局のところ、軍事
組織としてのみ至少化された「パ
ルチザン遊撃軍団」は現れられても、
それを生活的に支える「共産主義
共同労働団」の名は聞かれなかつ
た。そして昨秋、軍事が一頓座す

ると、雪崩をうったようによくたは
は敗走し、「パルチザン」前史とし
ていう映画だけが残つた。

反戦共同労働団 の離陸

⑰「生きるための」
⑱いつまでもホシヤツてばかりは
いられない。世の中動き出したし、
明日のシヨロ山もとにかくよみが
えつたではないか。

よくたはこ自覺的な改革として生
きるにはあまりに政治主義的である
ことを嫌うし、かといって「ルン・
口」として生きるにもあまりに俗物的
執着がありすぎる。結論的に言えば、
よくたはこやきみにとつての敵とは、単に
権力装置であるのではなく、それを
支えている人々の意図である。よく
たはこ確執を抱いて生きるのびるとい
うことは、それをどうつきくずすか
という一兵にある。だとすれば、市
民社会の深奥近く迫りながら、派
の中を苦惱している人々と重層的、
複合的ムレを創り出すなかで、もの
たけし流に言えば、「は」はつくばつ
て生きねばならぬ時がある。立つて
死すべき時があるし、そのような時を
準備し、相互にその個人を支援する
集団を夢想しはじめている。

へ反戦共同労働団とは何か

⑲名前などどうでも良いのだから
仮りにそれを「反戦共同労働団」と
名付けておこう。

それは、自分の生きる場々生活の
敵と怨念（即ち利害と理念）を最
大限に拡大する際の障害物とは対決せ
ざるを得ない個人が、複合的なムレ
をめぐらすことによつて集合体とし
て互いに支援しあうものである。そ
して、よくたはことりまく状況の中
で、不可避的な叩きを強いられてい
る人々と共同行動をとり、一方でム
レの脱着を防ぐための器、生活諸過
程をも共有する根拠地を構築するも
のである。

へ敵市民社会の解体へ

⑳そこで一体何がやりたのか。
それはどえらいことで、「こんな市
民社会など解体してしまえ」という
呪術にも似た恨みがある。

現在の闘争で、たとえ軍事的に勝
利したとしても、よく構筆論者がい
う「政治社会の裏にぞびえる頑強な
市民社会の和造」の前で躊躇してい
る向に反革命にしてやられるのでは

ないか。最も弱い政府が最も暴力的
であるとしても、その政府下に棲息
した市民社会が、よくたはこ志向と
は全く違う奥から叛逆している。

⑲たとえ今の体制の日共が革命
を起し（その可能性は殆どないが）、
バラ色のイメージを手をたとしてた
ら、よくたはこ断固反革命にまわるぞ。

「敵は市民社会にあり」だ。
⑳その市民社会を支える暗黙的イ
デオロギーとかエートスというのは、
「近代合理主義」と呼ばれるもので
ある。

それは、「目的達成には最も効率
的な手段が選ばれねばならぬ」と
定式化されるが、「目的」自体の当
否、その「目的」を必要とさせる主
体、その「目的」自体を規定してい
る価値観などは一切不問にされる。
——近代合理主義のトリックの一つ
はこれである。

⑳「目的」自体は生産性あるいは
能率性を至上の価値要件としてあり、
従つて誰にとつての目的かといえ
ば、何々の人間にとつてではなく、「総
資本」としてである。

文明の進歩とは生産力の進展の別
名でしかなく、科学の世界でも業績
量の増大化が学問の進歩と等置され
たりする。へだからよくたはこは、
「学問粉砕」を叫んだのだ。

その生産性増大という「目的」の当
否は問わさなれというのが、近代
合理主義の本音なのだ。

へ近代合理主義への叛逆

㉑いま、よくたはこをつき動かして
いるのは、「平和とパン」への飢餓
というよりも、上部构造的飢餓——
近代合理主義的な観念にとりしき
れた生活のルールに對する窒息現象
——ではないのか。へどうぞスチ
ル根性丸出しと笑つてやつて下さい

㉒「た」は「平和とパン」への飢餓は
繁栄とさへ呼ばれる現日本の帝国主
義の内面にもあどろくほど堆積して
いる。よくたはこは、そのような
共同行動をもつとも大切にせねば
ならぬ。よくたはこは、そのような
空間の往復過程のなかから自己の地
位、役割、対造の機軸をみてとらねば
ならぬ。

現代のような階級流動化（前史置
——参照）のなかで、上部构造的な
側面から、個人が地位・役割・対造の
なかで分有している秩序意識の解体
がなによりもめざましくなつた。
（次頁へつづく）

② 反戦共同労働団の組織論と
か、労働キヤンパス論といふのは、
近代合理主義的な観念にとりしき
られた生活のルールを超越し、そ
れに對置されるものでなければ
ならぬ。

新左翼といえども自己の党派の
政治意志の貫徹という目的の一
段としてしかオルタナティブな
一つの綱領のもとにかく結集
させればよい。しかし、よく
必要としているのは、中江
さらには後紅とどういふ関係を
つづけるかという問題なのだ。
⑤ 反戦共同労働団が具体的にや
ろうとしている活動は何か。

④ 互いに情報交換し、あるい
は自己の向題を普遍的に表現す
る場としての機関紙発行。

③ 不可避的に関わりを強いら
れる人々との連帯行動としての
労働キヤンパスをする。七月決戦を
伝えるための成田での機展、沖繩・
長沼等の基地によって自分の生活
を脅かされる地での機展、山
猫スト派へのカンパ等々の遊撃的
活動。

② 自分たちから一つの共同体、
根拠地を創成しようとする機展
――例えば、京都の地では大の共
同のラーメン屋バルチヤンとか、
△大の本屋バルチヤン等々――及
びそのための研究会。

① 反戦共同労働団の特徴的な活
動形態としての労働キヤンパスの
かでは、それは近代合理主義的テ
ィムと反する。

① 労働とは自分が好きなこと、
やらねばならぬ事を保証するもの
であらばよい。労働を神聖化する
必要はない。

④ 今までの価値観の決定は不可
知なものとして、諸個人に委ねら
れていたが、中口文革でもやって
いるように、コミュニン結の
中で個人主義でなければしんど
うてやらないような人間像を
改変していき、新たな討抗する価
値を練りあげていく。

③ 地区暴反乱の根拠とどうい
うような根拠地及び情報センタ
ーにもなりうるような空間を創造す
る。

② 収奪された言葉の奪還。と
りわけ「暴力」を近代合理主義か
らどう救いだすかということも向
題とする。

⑦ ぼくたちが運動しはじめたのは、
政治革命と社会文化及びそれを規定
する人間をも含めた変革という全共
同の遺産を違った位相であるが、正
統にも受け継ぐということだ。そ
れを分断化された個人と個人の関
係を結びつけていく運動論と集団論
の中で見いだそうということだ。
市民社会の組み直しをどうはかる
か、ということも古くは新しい命題
である。とにかく、胎動を開始する
ことだ。

△付記△

② イオム通信89号に何井が「沖
縄ワークキヤンパスは何であつたか」
と書いたように、自連16号は沖縄キ
ヤンパス特集をするところになつてい
た。その最大の理由は、キヤンパスを
知るかから積極的な意見が寄せられ
た、ということもあるが、今週のキヤ
ンパスを特集にあつたのは技術的な面
の点を考慮しても何れも遺産化しえな
いと考えたからである。それよりも
何故今日、あらためて労働キヤンパス
運動が再び返されなければならぬ
かを理論的に追求してみた。

③ その発端の一つは、東京全共闘の
思想的遺産としてのバルチヤン五人
組共同労働団を具体化するということに
ある。共同労働団のなかで、何故に「労働
団」が向題となつたのか、というの
が一つの重要なポイントである。そ
れは、南米と呼ばれるものの中に共
同体と生活がむちこまれていること
による。

④ しかし、新しくたどりつた地帯に
おける新しい運動は、全共闘運動の
みならず、従来のあらゆる運動の体
系ではない。全共闘運動が自己を
継承しきれない存在とあり、ヤ
リ切つてしまつたわけではな
い。全共闘運動が全共闘運動として終
了した時、新しい何ものかの確かな胎
動がはじまる。

⑤ 反戦共同労働団Vのイメージは、今
のところうろたへた仮説にすぎない。
これからの実践作業の中で徐々に具
体化されていくべきでない。反戦共
同労働団Vのイメージは形として
新しいことを感じさせるかも知れないが、
重要なものは「動」である。従来の労働
運動、学生運動、反戦運動にみ
られる「動」を創り出した時に思
つてみる。たとへば、そこで使われ
る言葉である。

⑥ 今週の沖縄キヤンパスでは労働キ
ヤンパスが新しく付加しようとする「南
米」の理解が深められ、よりよい。た
とへば、「沖縄を俺が解放してやろ
う」とか「沖縄へ行けば何の革命運
動ができる」とか、沖縄へのあが
りかた、その動機は何か。このよ
うな人は従来の運動のセンスのま
まに、実践的に結果を求め、価値を
求めている。沖縄へ行つてもなにも
ないのである。労働キヤンパスに出ても
革命は二つののである。沖縄の悲愴
「（？）に自らの加害意識に目覚める
というののもナンセンスである。強
いていうなら、沖縄の闘い方を沖縄に
学ばなければならぬことである。その他は
全て自分の問題であり、自分たちが
創り出すことの問題である。

⑦ 社会のクワッ面を必ずしも「街頭闘
争」のみにあつてはならない。見
るのは、60年後半から70年にかけて見

た夢であつたのではない。今、露
骨に社会の変革をねらうなら、社会
の和造の中に射し込む運動を、それ
に支えられ決定約瞬間に流出した
行動としての街頭闘争を行わねばな
らないのだらう。今までも余りにも
それが忘れられていた。共同労働団は
それに気づきはじめたのだ。
今週の沖縄キヤンパスは、機展は参加
者の面を今後も深化されていくだろ
うし、希望者があつたならば夏もや
つてみる予定である。できれば反戦共同
労働団として。
反戦共同労働団への連絡その他は、
姫路市龜山三五四自連社会で送り
たい。

△んしゅつしつ△

④ 紙面の関係で今週「アキズム武
者修業」の記しを休ませた。一度二
の連を考へ直してやるためであり
ます。また、三一新書で「武業修業記」
（仮題）を出してもらうことになり
ましたので、この機会にぜひ、読者
の皆さんの御批判をえたいと思いま
す。

⑤ また、月刊キヤンパス（東京都港区
坂之のさかワ日本キヤンパス協会発行）
にも、ヨロヅパの共同団に属する
ものを連載しはじめました。読んで
みて下さい。

⑥ 「自連」の向井が「向井の自連」
としてしか伝わっていないなら明ら
かに今までの自連は間違つていてと
云えます。しかし、それを感じさ
す何があつたのでしょうか、よく
思ひなす。向井は最近と
みにぼくたち若手社員に挑戦的で
造反を挑発してきます。だからとい
うのではなかつた、向井の「自連」であ
つた、市民運動へへ平連（？）に對
して、ぼくは、労働キヤンパス運動、
共同体運動、社会運動の「自連」を
作つてみたいと思つています。具体的
に云えば、今後は部落問題や朝鮮人
問題や公害問題なども取りあへず
向題です。さて今週はどうか、た
りです。アンケートを差し上げに
して下さい。

⑦ ⑧ 自連と聞かるとうろたへた半
年。もう一年以上たつていような感じ
だ。それだけにあまり価値のない半
年だ。だが、これも知れない。今号を
発行する十日間というものの、これ程長
く重く感じられた日はなかつた。
福岡・広島讀者会の話の中で未
だ自分と自連との関わり方の問題、家
庭との複雑な問題と、半年間にお
りにして来たことばかりが、この十日間
にいつぱいに表面化してきたのだ。
半年を十日で暮すへチキットオーバ
のような目にあつたのも、これです。
情な自分の責任だ。この確に讀者会
のことも含めて自己反省を著くつも
りだつたが、果てなかつた。出ま
るだけ早くすべつた問題の片づけ、出
直しを計ろうとしている。

⑨ ⑩ この連体を利用して福岡・広島で
の自連讀者会に出た。途中、ちくほ
うに寄り、九州通信に集まる人
々と一日をすごした。色々有義な
話が出た訳だけれども、その向「自
分の言葉をもたねば」としきりにア
ベツていた。讀者会等でも出された
自連への感想や意見が、この自連に
充分に反映できたとはいえなかつた。
これも、今後共、皆の意見が紙面に表
れる様に努力したいと思つてます。
（つかさとし）

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

焼き打ちされた石油資本

沖繩中城にみる新しい闘争

現在、沖繩で開かれていた土地闘争のなかでも、中城村久場の闘いは、沖繩でのあらゆる闘争が人民党のヘゲモニー下にあるのに、ここだけが唯一それを許していないことにおいて注目値する。

やつてきた死の商人

北中城と中城の両村議会が、米石油資本のカルテックスと資本提携している東洋石油（日本石油と琉球石油が合併）の誘致を決めたのは68年の1月である。11月には、任期切れまじわりの松岡政府によつて、久場崎から中城湾一帯の埋め立て認可がおりている。

それに対し農民は、公害問題を訴えてすぐに反対運動に立ち上つた。しかし、会社側は、誠意のある解答は一度もおこなわず、デマと虚偽の報告と黙殺によつて住民との話し合いを一方的に拒否し、工事と続行させていた。

このような会社側に対し、農民は本格的な闘争に立ち上つた。軍用道路は号線から埋め立て地に通じる二百米幅の道路は、一、二米位の岩石でバリケードが築かれ、工事用車輛の現場への進入を実力で阻止した。会社側がブルドーザーでそれを片づけると、翌日まで農民がさらに強固なバリケードを築いて対抗するといふことが何日も繰り返された。会社側は、これ以上工事を遅らせるわけにはいかなないとして、屋敷新政府と結託して、機動隊の警備をもつて工事を強行していった。さらに、暴力団主がいかにガードマンを使つて、工事現場から二百米しか離れていない闘争小屋を襲撃したりした。

爆発した農民の怒り

実際に工事が進むにつれて、埋め立てのために、久場の畑に潮があがつてきて、サトウキビが枯れてしまふ大惨事が起つた。公害が発生したら即時工事を中止するとは埋め立ての認可条件であつたが、反対同盟の工事中止の申し入れに対し、政府はそれを受けつけないばかりか、請願にきた農民を

機動隊を使って排除した。それ以後、常時私服が闘争小屋を監視するようになり、反対同盟

の青年部（青年学生、といつても主に高校生）が少しでも何かをするたびに、会社と政府が一体となつた露骨な弾圧と喝喝によつて、一部の農民が条件派に転向したり、反対同盟内部が瓦解するような事態が生れた。反対同盟の執行部のメンバーは、議長を除いて全員が闘争から脱落していった。社大党員の議長と人民党員の副議長といったような既成政党では、中城の闘いは担い切れなかつたのだらう。それだけ中城の闘いは、その本質においても、戦闘性においても、従来の沖繩闘争にみられなかつた新しい要素を内包している。

青年部は行動隊を組織し、実際運動のヘゲモニーを担うようになった。支援学生もやつて来るようになり、部落ぐるみの大きな高揚をみせようとしていた。そんな時に焼き打ち事件が起つた。東洋石油の事務所と工事現場に火がついたのだ。純粋な悪に対する、純粋な青年の怒りがそのまま表現された時に生じた悲劇であつた。

この事件で60名（半数は未成年）もの学生や青年が逮捕され、14名が起訴された。そして、反動派と条件派のいい攻撃材料となつたため、戦術を持たない農民の、転びを促進する結果となつた。

復帰後の沖繩闘争

アンケートなどでは、石油基地に反対する農民は、村の7割は下らないのに、実際の反対運動に起つ農民の数は急速に減つていった。それにちやうどこの頃から沖繩の農民にとって永く苦しいキビ刈りのシーズンに入つたため、以前には積極的に関つていた農民も沈黙したまま日々の仕事に追われる日が続いた。しかしその間も、金網の向うでは工事がどんどん進行していた。この対照を生み出す現実そのものが、農民に重く凍く圧し被り、どうしようもない諦感を与えるのだつた。

最近では、沖繩へのアルミニウム工場の一斉進出がみられるようになった。カルブ社と提携する米国のアルニアというアルミニウム会社、それに本土資本が中城の東洋石油の製

油基地の近くにアルミニウム工場の建設を計画している。それは、平安座島のカルブ、西原のエッソ、中城のカルテックスと並んで一斉操業するならば、その間接的には、一つの石油コンビナートや四角の地ではない。

それとの闘いは、まさに米国家資本との全面対決にほかならない。従来の沖繩の闘いが、米軍の弾圧に配との闘いであつたのとは、中城で始つたものは、目に見えない資本及び資本主義の原理との闘いであるとも言えよう。それは前面には公害問題があつても、70年代の明確な階級的闘争の質が見出される。

東洋石油は、すでに石油塔を建ててしまつてゐる。しかし、久場の反対同盟は、まだ一歩も引いてはいない。高校生を中心とした青年行動隊は、焼き打ち事件の辛辣な総括のもとに、講演会、映画会などを組織して、公害追放キャンペーンを展開することによつて、再び村ぐるみの反対闘争を準備している。

東大の公害研究グループなど外部から闘争に入り込んだグループに支援されて、運動は次々大きな波を持つてゐる。それは、明らかに72年沖繩返還後の沖繩闘争の兆しである。72年後の沖繩闘争こそ、ナショナルな感情におぼろげな、自立した闘いの開始がある。中城、いまそれがはじまつたのだ。（北田隆一）

焼打事件で起訴された中城の青年部行動隊の裁判闘争のカーネも自連社で強く訴えるとともに、その取り扱いをします。



《やったぜベイビー》 4月某日、大泉市民の会にも参加している東京のS君、太陽の塔の目玉からビラ爆弾に成功。目玉から投げられた種々の色のビラののたまきり、地上約5米のところにまでスーッと落ちてきて、突如パツとちた様は、まるで空中に花が咲いたようだった。それを喜んで子供たちが拾ったが、読んでびっくり「万博粉砕！」

《太陽の塔ろう城の問題》 自連六号の「札幌、道庁に突如へ平連旗」の主も彼だ。その他にも札幌で一面、広大斗争でも一面捕つてゐるS君の今後の乗って辛い闘争に連帯を、彼の行動の真の意味を理解しよう。